

成人向け



女

毒
女

毒
女



あ…貴方
おかえりなさい…
出張お疲れ様…

出張先は
どうでした？

そう…

ただ

強烈な多幸感だけは
脳裏に焼き付き—

—今日みゆきも
修学旅行から
帰ってきて

—帰るなり
すぐ寝ちゃったわ

無意識に其れを
反芻する自分がある

反芻する度に蘇る悦び

普通に…
過ぎていった…わ

そう…

ええ…特に…
この三日間何も…

普通…に

なにも…

逞しさと多幸感を
反芻する

いいわよねえ
修学旅行…

あーあ
私も

学生時代に
戻りたいわあ
ーなーんてね

ね…今晚
旦那さん出張
なんでしょ？

よかったら
私のうちに
遊びにこない？

やよいも
いないし
たまにはウチで

仲のいい友達呼んで
パーティーしよう
…かなーって…

前から育代さんと
遊んでみたかったのよ

どんな
パーティーって
…？

少しだけ
変わってるかな？

ん…

当日のお楽しみ
ってことで

みんな優しいから
育代さんもすぐ
気に入ってくれる
と思うわ

大丈夫
毎日会ってる
私が言うんだから
間違いないわ

きつと
ウマが合うから

ねっ

きまりね

じゃあ
イキましょ

きつと楽しい
パーティーに

なるわ…



もーみんな
遅いわね

せっかくのお料理
冷めちゃう

もーいーわ
育代さん先に
いただきましょ

大丈夫よ
待たなくったって

ちよっとだけ
なんだから

ほら

いいから
育代さんも

付き合っ
て

はい

もう…
ちはるさんってば
強引なんだから…

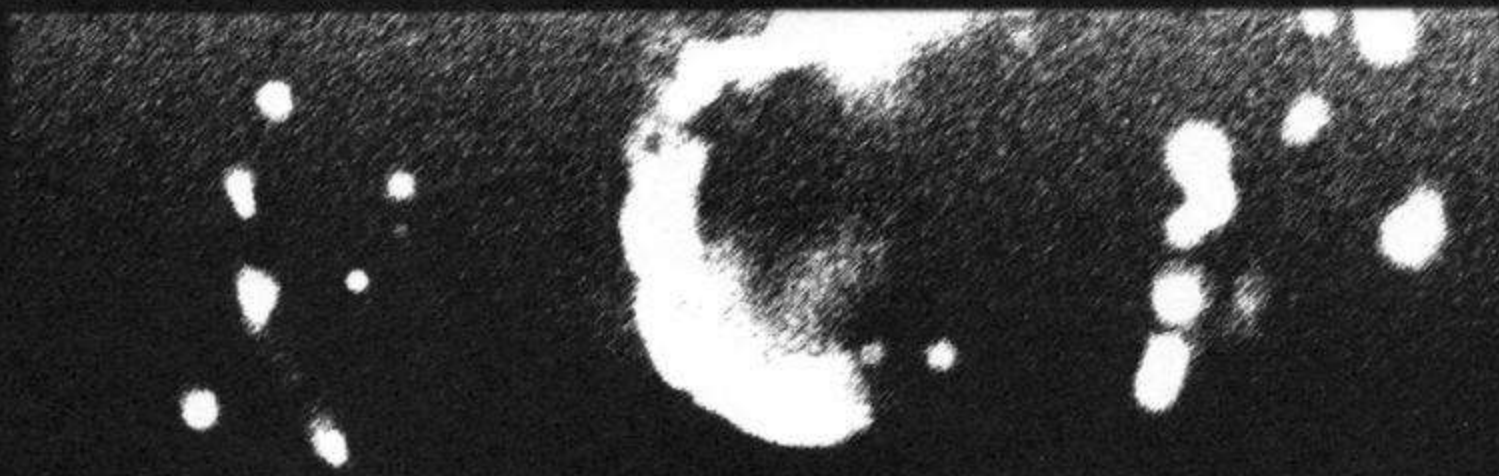
じゃあ…
少し…だけ

かん…ぱい…

ん…ん…



大丈夫きつと
気に入って
もらえるから



はあ

あ…

あれ…私…
どうした…の

は

飲んで…て…

たしか…
…わたし…

は

それで…

…なに…
だれか…
わたしの…

服を…

あ…

…つい…

だれ…?

ああ…

は

やだ…
わたし…

なに…
え…ああ…

はあ

あ…

…あ…っ

あ…

き...す...っ



は...あ...

だ...れ...

あ...
あな...た...?

あ...
あ...

七...六...

七...六...

ん...

ん...

七...六...

あ...な...た...

あ...あ...



は...

は...

は...!

は...あ...

は...あ...

あなた...

ん...ん...



は...あ...

あなた...あ...
あ...あ...あ...



あ...

...あ...あ...
いつも...より...
すご...

七...六...

七...六...

七...六...

どうしたの...
あなた...あ...



七...六...

まるで...
人が違った...
みたい...

激しくて...

なんだか...
あつ...い...

あ...あ...

れ...

ふはあ...

まるで...

別じ...

れ...

...

.....っ

!!

...なっ



だ…め…

ほあ

あ…

ほあ

え…っ
な…

は…っ!!
な…に…
誰…っ…

あなた達…
だ…だれ…
何を…して…

え…っ

な…っ

だめ…

な…何なの…
ち…力が…
はいらな…

え…うあっ!

あああ…

な…なんで…
あ…あああ…

なに…なにが…
おこって…い…
るの…

あ…くうう…
んんんん…
ふ…っ
くううう…
ああああ…

ズム…

お…



い...いやっ...
やめて...
やめてえ...っ

は...はね除け
ないと...
こんな...っ

はあ

あ...ああ...
あああ...

だ...め...よ
だめえ...

はああ...



か...身体が...
どうして...
力が...入らない...

い...いやっ...
あ...いやあ...

ん...

ん...ん...ん
ん...ん...ん

ん...ん...ん

やめて...
お願い...やめ...



あ...
ひ...う...

あああ...
ひあ...あ

やめ...へ...
頭が...
あた...ま...

しびれ...



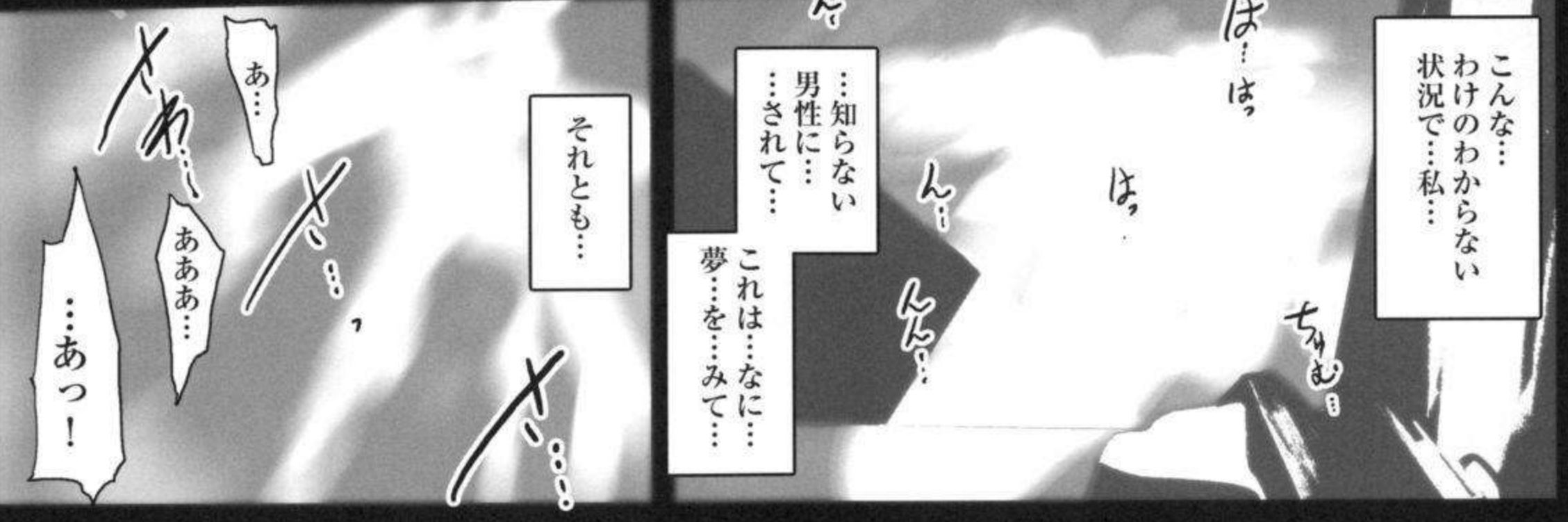
どうして...

ん

ん...はあ...

どう...して...

はああ...



こんな...
わけのわからない
状況で...私...

...知らない
男性に...
...されて...

これは...なに...
夢...を...みて...

それとも...

あああ...

...あつ!



.....

.....

—

どれほど
経ったのか...

ひたすら...
愛撫され
続け...ている...

愛撫だけで...
何度も...
イカされて...

なぜなのか...
どうしてなのか...

わからない...
もう...何も...
わからない...

ただ...
ひとつだけ...
確かな...事は...

徐々に...
馴らされて
いるということ...

いつの間にか...
薄らいで...
身動きできぬ
身体にされ続ける
執拗な愛撫に...

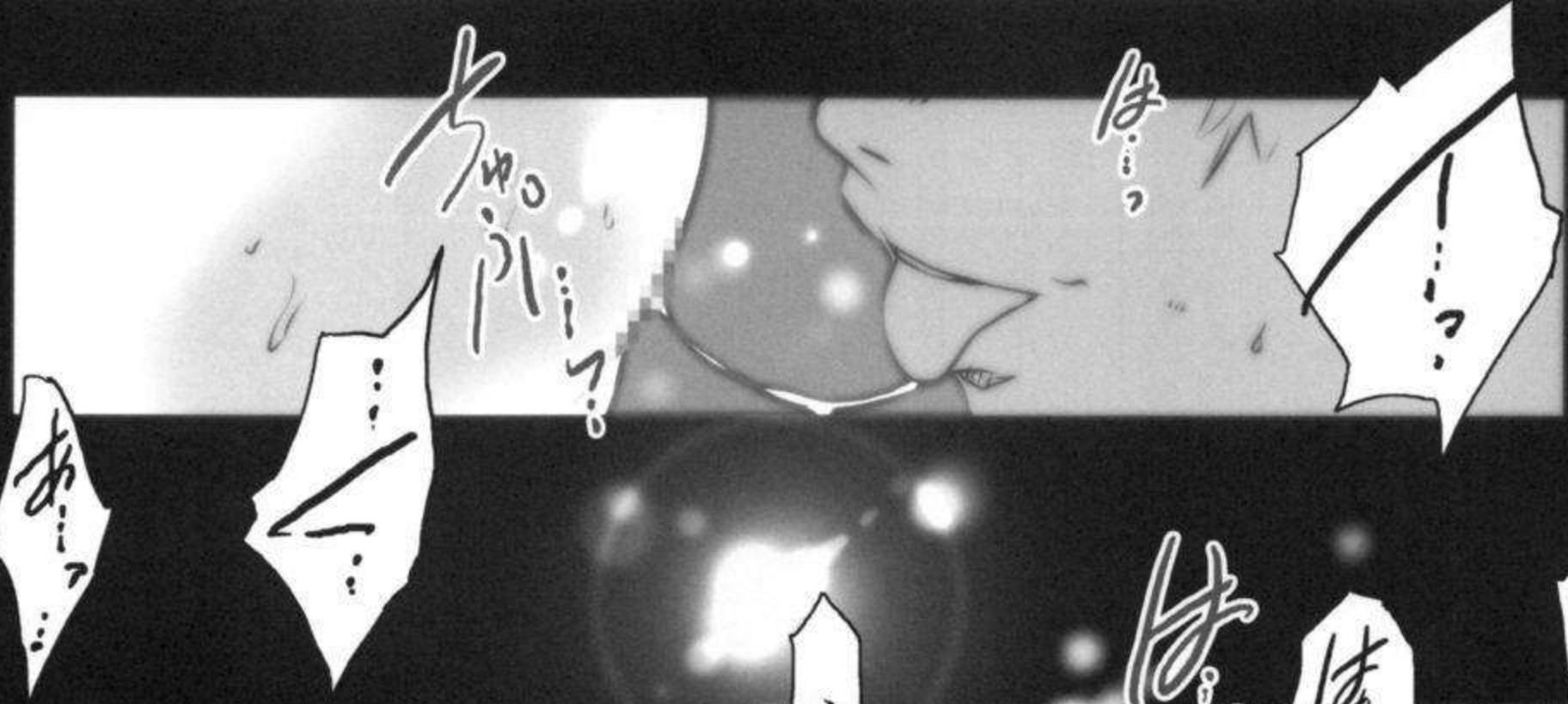
いつの間にか...

身を任せ...て...

...最初の
嫌悪感...
抵抗感...

いつまで...
こんな...

いつま...



あ...
あ...
あ...

ほ...



な...
え...え...

ほ
ほ
ほ

え...な...っ

な...
...っ
...に...っ



ほ

ほ

え...
え...っ...
え...あ...
え...



何の...つもり...
なの...もしかして

な...なんで...
笑って...えっ...
...なに...っ

...なに...何なの...っ
...なに...その...目...っ

ほ



な...何...?
ど...どうして
急に...や...め...

も...もう...
今...イク...

でも...なに...
その...その...
何かを...期待する
...様...な

お...終わり...
なの...?

あ...ああ...
いや...いやあ...

何かを...
待っている...
嘲笑...

わ...
わ...
わ...



い...や...
はな...して...
こんなの...

—え...

な...っ

な



な...
つ...掴まれた
腕が...え...

か...感じ...
...う...嘘っ

あ...あ?
な...

そんな...

なんなの...これっ...
なに...これ...

い...いやっ...



お...終わり...
なの...??

な...何...

え...「そろそろ」
...て...何が...

え...っ
い...いやっ
何をする気...
なの...っ

もう...ゆるし...
...て...おねがい...

やめ...



これ…これ…
舐めても…
いいの…?

ちよつとぐらい…
いいでしょ…
だって…これ…

夢…だもん
私の…夢の中…

おねがい…
おねがい…よお…

おねがい…

はー

はー

はー

はー

はー

はー



すっごい…
ああ…美味し

遅しい…熱く堅く…
…激しく脈打って…
ああ…舌が…
唇が…火傷しそう…

あの人と…
夫と…全然…

あ…あなた…

み…ゆ…き
……い…

あ…あなた…

はー
あー
あー

はー

あー

あー



あ…ああ…

おいしい…
おいしいの…

あなた…
こ…この…
おちんちん…

すごい…

ごめん…
な…さ…

お…ち…ん

あ…な…

ちん…ほ

…お…ちん…ほ
ちん…ちん…
ちん…ほ…お

ん
ん
ん

ん
ん
ん

ん
ん
ん



おちんちん

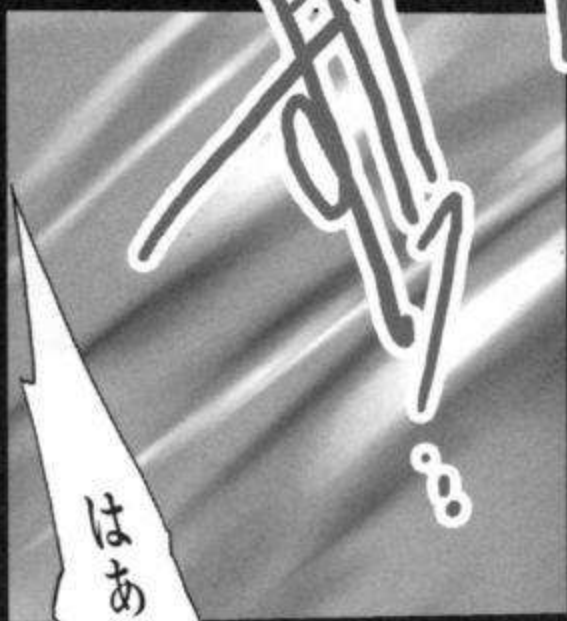
ちんちん

ほし…

おちんちん

おちんちん

其処から後の事は
よく覚えていない



ただふたつ

脳裏と身体に
焼き付いた

味わった事のない圧倒的な多幸感と



交わした約束だけは



私は只管 肉欲に溺れ
初めて知る恍惚感に酔い

ああ…

おちんちん
熱かたあい…
おっぱい火傷
しそおお

おっぱい
おちんちんに
いじめられてえ

よろこんでるのっ
育代よろこんでる
のおおおお

あああ…
おちんぽお

向けられた視線に
気付きもせず

んー
んんー
おひんぽお

んご…っ
んん
んん

んごおお
んんん

げはあ

おいひっ
おいひい
んんん

あぶああ
おひんふお

おひっ
おひいっ
おごおお

あああああ
おごおお

ああああつ
ああああつ

え…セフレ…

セフレになったら…
…毎日…

こんな…
凄いセックス…

毎日…

夫の居ない
ときにい…

あつ…あつ
あつあつあつ
ああ…なるう…
なりますう…

い…いやらしい
…友達に…っ
してえっ

してくださいます
皆様の…セフレに…
皆様の…

毎日…して…
くれるの？
セックス…

気持ちいい好きい…
気持ちいいの…
知っちゃったの…

これからもう
離れられないからあ
だからあ…

ああ

育代は皆様の
淫乱変態セフレに
なりたいたいですうに

人妻育代を
みなさんの
セフレにい

し…たああ
し…ああ



出るのっ
出るのっ

ミルク
出るのっ
びゅるるって

はっ

はあっ

飲ませてっ
のましてて

せーし
のましててっ

あああ

激しい膈内射精が、子宮に隙間なく充たされる精液の暖かさが
限りない充実感を、快感を、高揚感を与えてくれる事を
夫以外の男性に教えられた私は—

愛する夫では知り得なかった
限りない幸福感に包まれ



気に入って
もらえて

育代さんに

よかった

その
絶望の視線に気付いたのは—

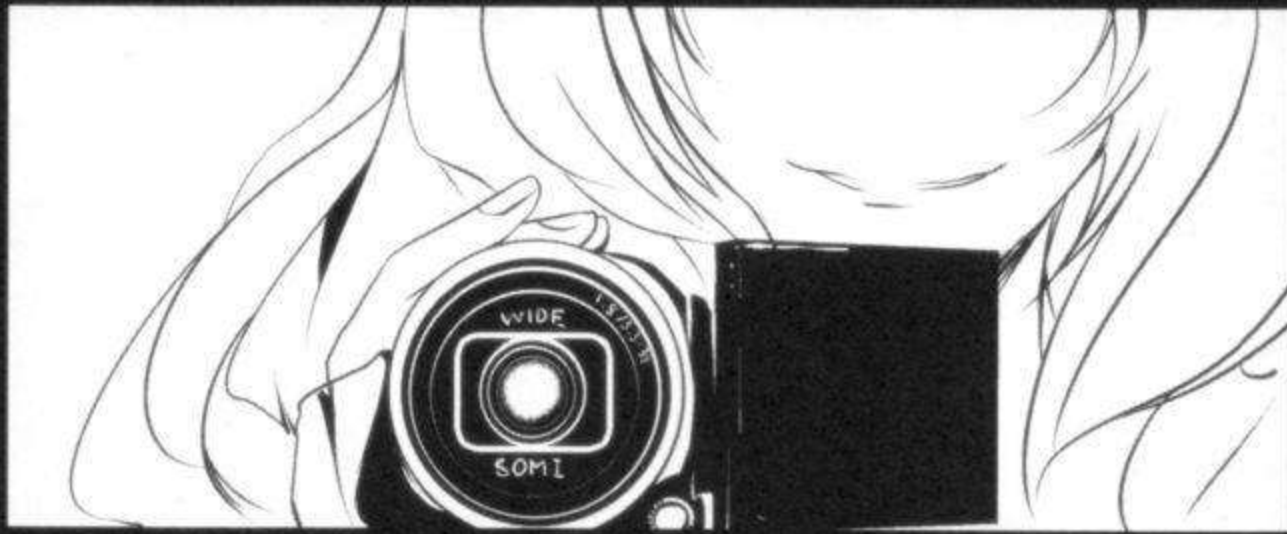


でもね

本当に
楽しい宴は

これから

約束は
笑顔の手にある
冷たき視線に焼き付き



その瞬間から

はじまるの—

私を
焦がし始める

カメラを持つ彼女の姿

ここから先の記憶が
——無い

気がついた時には

丸二日が経過していた…

盛られた事を
程なく知り

後悔する

愛する夫と娘への裏切りに

逃れられぬ
最悪の結末へ

昨日まで白紙だった未来が
家族と紡ぐ未来が
黒く染まるのを感じる

今日も

明日も

今も

そしてこの瞬間—

絶望が始まったと確信している

なのに—
私は 今も

この瞬間も

多幸感の正体も分かった
今なお

愛する夫の目の前で—

あ…貴方
おかえりなさい…
出張お疲れ様…

出張先は
どうでした？

そう…

—今日みゆきも
修学旅行から
帰ってきて

—帰るなり
すぐ寝ちゃったわ

普通に…
過ぎていった…わ

そう…

ええ…特に…
この三日間何も…

普通…に

2012年8月12日刊

コミックマーケット82発行

L-54b -水滴屋-

水滴家 悠民
ねこぱじゃま
いさみ
笹原 悠貴

yuminad@hotmail.com

印刷 / ねこのしっぽ様

この本は成人向けです
未成年の閲覧、購入を禁止します

なに…も…
……っ

記憶にない
身体に刻まれた

正体のわからぬ
「何か」を

反芻して

裏切り続けている…

つづく？(ω)





水滴屋